

神戸市いじめ問題再調査委員会からの提言に対する履行状況の検証・評価の進捗状況 (第 2 回 検証・評価ヒアリングの結果報告)

1. これまでの開催状況

(1) 第 1 回 検証・評価ヒアリング

開催日時：令和元年 11 月 25 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分

会 場：神戸市勤労会館 406 講習室

出席委員：春日井委員、三木委員、渡邊委員（委員名：敬称略・五十音順）

(2) 第 2 回 検証・評価ヒアリング

開催日時：令和 2 年 3 月 23 日（月）19 時 30 分～21 時 00 分

会 場：神戸市役所 1 号館 21 階 1212 会議室

出席委員：春日井委員、三木委員、渡邊委員（委員名：敬称略・五十音順）

2. 教育委員会事務局からの説明概要

- ・ 教育委員会の附属機関である神戸市いじめ問題審議委員会（以下「同審議委員会」）から受けた、提言前後の教育委員会における取組状況に対する検証・評価と、同審議委員会が今後の取組に向けて提唱する施策等について説明。
- ・ 同審議委員会が提示した「いじめ問題」に対する「子ども理解」、「学校組織」、「地域・多職種連携」、「いじめ対応」の 4 つの柱立てによるロードマップ（短期・中期・長期に分類した実行計画）について説明。
- ・ 不祥事の再発防止と組織風土改革に取り組む「教育委員会改革 実施プログラム」の進捗状況について説明。

3. 主な検証委員の発言・指摘

- ・ 監理室・地区統括官という組織が、学校現場にとって「管理の強化」ではなく、「支援の強化」と受け止められることが必要。
- ・ 教員が保護者・子ども・同僚と双方向の対話ができることが重要。教員の一方通行の姿勢は、暴言やハラスメントにつながる。子どもや同僚との双方向のコミュニケーション能力を身に付けるグループワーク等を含んだ研修こそが重要。
- ・ 多職種連携について、専門職同士の交流もあってしかるべき。その連携した専門家集団の話し合いの成果を、教員を含めてどのように共有していくか。最後は教員が成功体験を積んで、その必要性を感じてもらうことが重要。
- ・ 今後、実施していくための実行プログラム等を策定していく際には、現場の教員がいじめ問題にさける労力を考え、この提示されたロードマップから大事な項目を精選して、「これをやる」という重点化された取組を、短期、中期、長期について明確にすべき。